

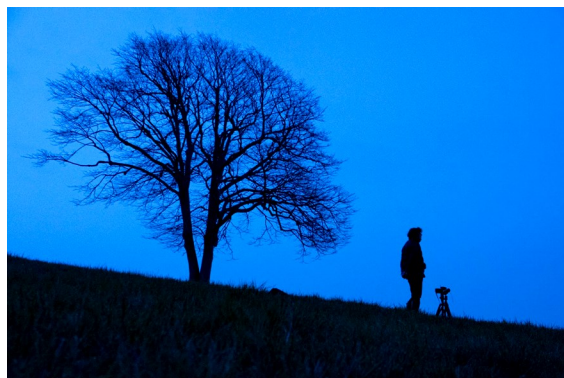
マルセイニュース 2月号

発行日 2016/2/22

株式会社 マルセイ
浦河町東町うしお1丁目
〒057-0005 TEL0146-22-5123



写真 Jensen chua



写真(上下) 加藤剛

日常の風景も、わたしたちの宝物



様似町ひろみさん 画

干された昆布が強風で揺れています。迫力あるこの風景写真は、プロカメラマンのジャンセンさんによって撮られた一枚です。世界的なカメラマンのマイケル・ケンナさんが夜通し浦河で撮影したのは、丘の上の1本の桜の木と月の風景でした。(4ページで紹介) こうしてわたしたちの身近な風景が、カメラマンの手によって一枚の写真に収められ世界に発信されています。



無病息災、商売繁盛、厄払い祈願



鬼は外 福は内～！

2月3日(水)、節分のことでした。この一年の無病息災、商売繁盛の祈願に訪れる人に混じって、浦河神社に赤鬼が出現！長い石段を登っていく赤鬼の背中には、「浦河一番」というなぞの文字がありました。厄払いの豆まきに訪れた子どもたちには、思いがけないプレゼント。赤鬼さんと出会えてよかったね♪



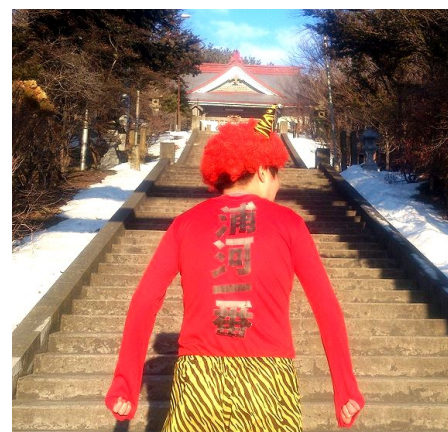
今年の干支は「丙申(ひのえさる)」

「浦河は人があつたかい町です！」と話してくれた大澤さん。「百年も続いた浦河神社での騎馬参拝は、何とか復活できないものでしょうか」。そんな思いも抱いているそうですよ。

自ら積極的に地域の人と繋がろうと行動している大澤さん。「百年も続いた浦河神社での騎馬参拝は、何とか復活できないものでしょうか」。そんな思いも抱いているそうですよ。

「浦河は人があつたかい町です！」と話してくれた大澤さん。「百年も続いた浦河神社での騎馬参拝は、何とか復活できないものでしょうか」。そんな思いも抱いているそうですよ。

「浦河は人があつたかい町です！」と話してくれた大澤さん。「百年も続いた浦河神社での騎馬参拝は、何とか復活できないものでしょうか」。そんな思いも抱いているそうですよ。



「寒い寒い…」と言いながら石段を登って行きました

1. 今年の干支は「丙申」は、今まで頑張って努力していた人は苦勞が報われて形になって見えてくる年だといわれています。



マルセイの「暮らしのサポート」をご利用下さい

2016年の「片付け仕事」スタート！

まだまだ寒さが厳しい中、今年初めての片付け仕事に出かけました。今期のマルセイはより一層、様々な「暮らしのサポート」ができる会社を目指して頑張ります。ご相談の内容全てにお応えすることは出来ないと思います。でもできる限り、当社のお客様の困りごとの相談にお応えしていきます。

お客様からお受けした相談からスタートした当社の片付け仕事も、長年の間にずいぶん経験を積みました。この仕事は、目の前で本当に喜んでいただけたことが多く、励みになる仕事です。今年も「お願いして良かった」と喜んでいただく笑顔に出会えるように、みんな頑張つて取り組んでいきたいと思っています。押し入れの中、物置の片付けなども、どうぞお気軽にご相談下さい。

お気軽に
「」相談下さい！

小さな会社だからこそできることもあります。地域の方々との交流や協力も含めて、お客様と誠実なつながりの持てる会社でありたいと思います。

お客様の中にも、ご高齢のひとり暮らしの方が増えてきました。これからは、日々生活する中での小さな困りごとの相談に、よりお応えできる会社であることが必要とされていると思われまふ。



風呂釜凍結・ストーブの燃焼不良・灯油タンクに水の混入

寒い時期は、色々な修理のご依頼が発生します

立春が過ぎて、日差しの変化に春が近づく気配を感じますね。今年の冬はそれほど寒さが厳しくはありませんでした。それでもやっぱり、大寒の前後の寒さの影響で燃焼機器修理の依頼が相次ぎました。

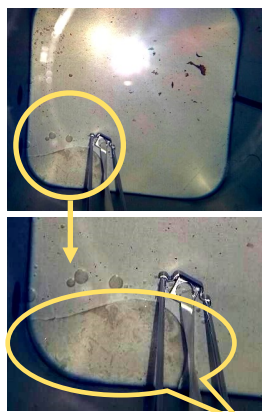
会社では、持ち帰った風呂釜を設置します。それから水漏れの箇所を確認し、その箇所を溶接します。（以前は自社で溶接していましたが近年は信頼できる板金屋さんにお預けしています。）それから再度取りつけて試験をし、問題がないことを確認してからお客様の自宅に向かいます。修理が済むまで、お客様がお風呂に入れないのはとても不便ですね。なるべく早くなおして、お客様にお届けしたいと思っています。



破裂箇所を溶接した後です

1月末から2月。厳しい寒さが続くこの時期は、例年通りに風呂釜の凍結修理のご依頼がありました。風呂釜の凍結修理は配管破裂の場合が多いので、溶接を必要とします。そのため、ほとんどの場合、その場で修理をするのではなく、お客様のお宅から風呂釜を取り外して会社に持ち帰ります。

毎年、大寒の時期に
氷点下の日が続くと
風呂釜の凍結が！



90ℓタンクの底にたまっている水

マルセイで2年目の氣田くん。慎重で器用です。この冬は、社長と一緒にいくつも修理の仕事に出かけました。視力や体力の衰えが気になる社長を大いにサポートしながら、ストーブや風呂釜の修理などに取り組んでいます。ひとつひとつ経験を積み重ねる中で目に見えて成長する若者の姿は、日々の仕事の中、私たちの大きな励みになっています。そして私たちもまた、若者と一緒に成長したいと思っています。

経験を重ねて
技術を身につける



古くなって変色し、形も変わってしまった部品も交換しました。これでお湯の良くなり、お客様からも喜ばれました。





抽選は毎回、「責任重大！」と緊張する社長です。

灯油100ℓ 当選者発表！

新春マルセイお年玉クロスワードパズル 「お年玉灯油」プレゼント

当選おめでとうございます！今年は今までのプレゼント灯油の中で一番多い100ℓプレゼントとあって61名（はがき50名、Fax2名、メール9名）の方からご応募をいただきました。あたたかいメッセージもたくさん添えていただきました。ありがとうございます♡



抽選を担当するのは、今年で2回目の氣田くんでした。

♡ おめでとうございます！

マルセイの新ローリー

答 ホ ノ ボ ノ ゴ ウ

サ	ン	カ	ホ	ウ	ソ		ド
ツ		イ	ネ		テ	ゴ	ロ
カ	ク	シ		ヒ	ー	ロ	ー
	ジ	ヨ	ウ	バ		ウ	ン
バ	ヨ	ウ		ナ	カ	マ	
ク	ウ		コ		ボ	ル	ト
ガ			ア	ヅ	チ		リ
イ	ノ	ハ	ラ		ヤ	セ	ノ

驚いた後に、とっても喜んでくださった松田さん。当選おめでとうございます！



♡ 松田 智恵美 様



当選の連絡はEメールで。釧路に出かけていたタッドさんから「グレイト！」

♡ オーヴィック 友佳子 様



たくさんのメッセージも、ありがとうございました！

色々のニュースや意見等々、バラエティーに富んでいて楽しんでいます。

昌平町 T・K 様

楽しく読ませていただいています。浦河町を大切に思う気持ちがとても感じられます。私もその一人ですが、なかなか行動に移せませんが…。そう思っている人はたくさんいるのでしょうか。

東町かしわ S・U 様

昨年引越してきて、浦河町のことが何もわからなかったのですが、色んな記事があり、浦河初心者の中にはちんぷんかんぷんなどところもあるのが本音ですが、皆さん仲良く働いているのが伝わって来て羨ましいです！これからも楽しみにしています。

堺町 M・M 様

毎号の表紙はいつも見どころだと思っています。また、料理のコーナーも良く見ます。春から一人立ちするので今までの料理のレシピを活用していきます。これからも最新情報を 楽しみにしています。

堺町西 U・A 様

今月はどんな記事が載っているのか、いつもワクワクしながら読ませていただいています。

常盤町 N・F 様

浦河へ来て数年の私の貴重な情報源です。これからも頑張ってください！

東町かしわ J・S 様

クッキングのページで食べている「ばわふる」さんの顔を見ると…今年も痩せるのは無理？では？

堺町東 M・S 様

皆さんと元気に今年も迎えられて、うれしく思います。今年は灯油も少し安いので、心もポカポカです。

東町ちのみ K・J 様

町内の情報もわかりやすく書かれているので助かります。今年こそマルセイさんに手伝ってもらい、物置を片付けたいと思っています。

東町 S・M 様

ばわふる日記、楽しいです！頑張ってくださいね！

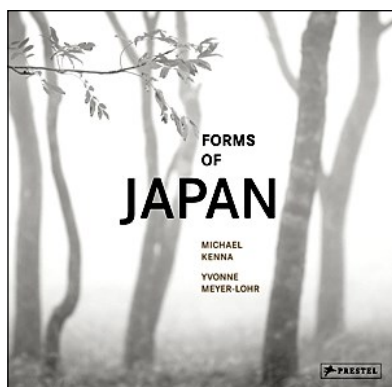
堺町西 T・Y 様

クッキングは毎回、本当に楽しみでマンネリしやすいわが家の食卓にのぼりおいしく頂いています。みなさま、お身体に気をつけて頑張ってください。

堺町川沿 H・M 様



写真 加藤剛



Michael Kenna(マイケル・ケンナ) さん

公式HP <http://www.michaelkenna.net>

写真集「Forms of Japan」Michael Kenna



写真 Jensen chua

ジャンセンさんが撮影した、加藤剛さんと馬とのワンショット。ステキな写真ですね。

プロの写真家が撮った写真を通じて 世界中に紹介されています！

私たちが暮らす地域の風景写真が世界中に紹介されています。写真ってすごい！
海外から来た写真家が撮った風景写真は、これからの地域の観光にとっても、
大きなPR効果をもたらすかもしれません。

写真に添えられたこのクレジットと共に、世界中にうらかわが紹介されているということですが、これってすごいことです。
ケンナさんの公式ホームページにある「Recent Work」の中でも、世界中の美しい白黒写真と一緒に浦河で撮影された写真が2枚紹介されています。(2月17日現在)
とても素敵なので、みなさんもぜひチェックしてみてくださいね。

Photo: Sakura and Full Moon, Study 1, Urakawa, Hokkaido, Japan, 2015.
© Michael Kenna.

その時に浦河で撮影された桜の木と月の写真は、昨年9月に発売されたケンナさんの最新の写真集『Forms of Japan』に掲載されました。

浦河での写真撮影が実現したのは、10年以上ケンナさんの北海道のガイドを務めている加藤剛さん(小樽市在住)のご案内によるものでした。北海道の魅力ある風景を熟知している加藤さんが、浦河の風景に着目してくれました。

昨年6月、イギリス出身で現在はアメリカ在住の写真家マイケル・ケンナさんが浦河を訪れました。ケンナさんは世界最高の風景写真家の一人です。作品は世界中70以上の美術館に所蔵されていて、日本でも非常にファンが多い写真家として知られています。北海道では、2010年に札幌宮の森美術館にて「マイケル・ケンナ写真展 風景に刻まれた記憶」が開催されました。

次いで昨年12月、加藤さんはシンガポール在住のカメラマン、ジャンセン・チュアさんをこの地域へガイドしてくれました。許可をいただけたので、その時撮ったジャンセンさんの写真をご紹介します。

カメラマンによつて魅力の引き出され方は違うものですね。ししやもや昆布が干されている姿、寒風の中で丸くなって群れる海鳥。身近にあるいつものあたり前の風景が、プロの手によると、こんなに素晴らしい風景となるのが驚きです。

牧場で馬を見たり、海岸を歩いたり、アポイ岳に登ったり。ジャンセンさんがここに来て撮った風景写真の数々も、後日、インターネットなどを通じて世界中に配信されています。

ケンナさん、ジャンセンさん、そして加藤さんありがとうございました！

広報うらかわ最新号の特集は「浦河で何みる？何する？観光でまちおこし」がテーマでした。一枚の風景写真の中にも、そのヒントがありそうですね。

マックス



Jensen chua(ジャンセン・チュア) さん
ブログ: 500px.com/jensenchua

写真 加藤剛

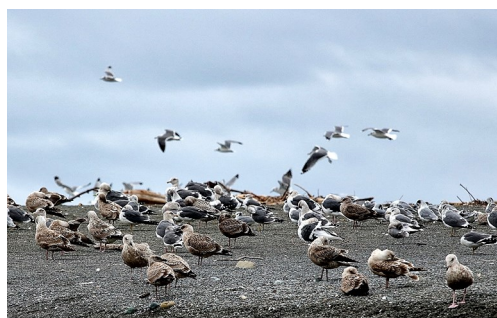


写真 Jensen chua

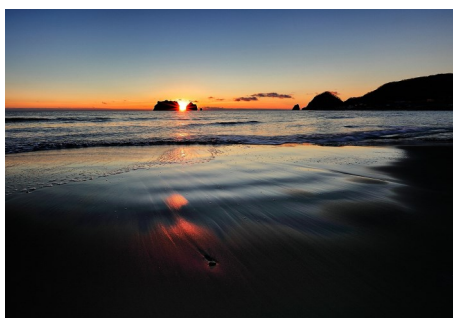


写真 Jensen chua



写真 Jensen chua

うらかわ乗馬療育ネットワーク主催 東京でのシンポジウムに大きな反響！

『馬は理想のセラピスト』

～乗馬療育ってなあに？～

2月11日(木祝) 会場:東京国際フォーラム

「乗馬療育の取り組みをもっと広く知ってもらいたい!」。東京で開催された有料のシンポジウムには、全国から100名の定員を超える参加があり大きな反響がありました。関係者のみなさん、よかったですね^^



アニメセラピーは聞いたことあるけど、何で馬なんだろう？
馬って危険なんじゃないの？そんな疑問もきっと解決！
人と馬に関わるスペシャリストから「オリンピックを目指す」「馬術選手まで」
様々な分野で活躍する人たちの話を聞きながら理解を深めてみませんか？
北海道の馬の町で乗馬療育を専門的に取り組んでいる内田や、
乗馬の科学的効果、また乗馬の可能性などについて、
盛り沢山な4時間です。

馬は理想のセラピスト
～乗馬療育ってなあに？～

2月11日 木祝日
13:00～17:00
東京国際フォーラム ガラス橋 会議室 (G510)



浦河町の特色ある取り組みである乗馬療育を広く普及するため、昨年9月に発足した「うらかわ乗馬療育ネットワーク」。長年、乗馬療育に携わってきた乗馬療育インストラクターの江刺尚美さん、理学療法士の小島愛子さんが所属する一般財団法人ホースコミュニティを中心に、乗馬療育を利用するお子さんがいるお母さんや地元医療機関、浦河町などのメンバーで活動しています。

その一環として東京国際フォーラムにて「馬は理想のセラピスト」というシンポジウムを開催しました。「本当に興味がある方に来てほしい!」ということで、一般参加者5千円、学生千円という価格設定でした。

当初はお客さんが集まるのか不安だったといいますが、参加者募集開始から2週間あまりで百名の定員を超える申し込みがありました。首都圏の方はもちろん、京都や山形などの遠方からもたくさんの方が集まりました。



馬は理想のセラピスト～乗馬療育ってなあに～
乗馬療育に限らず、馬の取り組みに興味がある人や医療福祉に従事されている方など、多岐にわたる人が集まりました。

今まで馬介在療法(ホースセラピー)や馬に関わる話は学会などの専門的な会がほとんどで、一般に開かれたものはほとんどなかったといえます。

今回登壇していただいた講師陣からも「また次回もやりましょー!」という言葉をいただいたそうです。こういった馬の可能性を広く伝えることも、浦河町の出来ることなのかもしれませんね。

次につながるシンポジウムでした

浦河町の乗馬療育の取り組みをPRしたのはもちろん、その他の講師陣もその道のスペシャリストの方々です。ホースコミュニティの代表理事でもあるJRA調教師の角居勝彦さん、リオパラリンピック出場が内定したパラ馬術競技者の宮路満英さんご夫妻、ホースクリニシヤンの宮田朋典さん、関西福祉大学教授の倉恒弘彦さん。多様な分野で馬に関わる方々のお話はどれも魅力的でした。



2月13日(土)の六畳書房



「六畳書房」の営業は、不定期開店に変わりました

実は昨年6月、開店や仕入れにも協力いただいていた札幌の「くすみ書房」が閉店して以来、入荷できない本が増えていました。また、営業日の月曜以外の来客や注文、取材の対応など、立場が町議に代わったことも相まってボランティアで続けることが少し難しいと感じていました。書店をビジネスとして継続できる企業が現れたのなら、お任せして一区切りつけてもよいのではとも思いました。

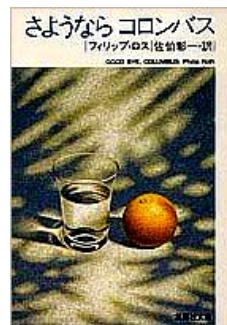
ただ、休店中にお話を伺う中で、「なんとなく気軽に寄れる場」として六畳書房を必要としている人がいることも知り、それは自分自身にとってもあった方がいいと思直しました。「もっと気楽にやったら?」とすすめられたり、「本がきっかけでつながりができる場だった」との声も励みになり、2月8日から再開。13日にも開店しました。

今後は不定期の開店なのでちよつと利用しづらくなりませんが、細々と肩の力を抜いて続けていこうと思います。当面はFacebook(フェイスブック)で次の営業日等をお知らせしますので、引き続き「六畳書房」をよろしく願います。

六畳書房店番 武藤拓也



最近読んだ本の中より…



『さようなら コロンバス』

フィリップ・ロス 著 (1933〜)

集英社文庫 出版



「フレнда、君を愛していたんだ。だから、気にしたんだ」「愛してたわ、私だって。」そして、僕は、自分たちのふと使った過去形に気がついて、二人とも、はっとして黙り込んでしまった。数分後に僕が外套を着て部屋を出てきたとき、フレндаも泣いていたように思う。(本文より)

むかし、遠藤周作さんがこんなことを書いていました。若いころ、勢いにまかせて乱読した本を、50才過ぎてから読み直すのはほんとうに楽しいものだ。こんな話だったのか、と驚くこともしばしばだが、年を重ねてからの再読は人生の楽しみのひとつである…。細部は記憶間違いがあるかもしれませんが、こんな文章でした。

そのころ20代だったわたしには、50才をすぎた自分の姿などまるで想像ができませんでした。40代になると、この遠藤さんの言葉ががぜん現実味を帯びて来て、よし50才過ぎたらオレもむかし読んだ本を再読してやるぞ、とわくわくしながら思ったのです。

50才を過ぎてからはや7年。今年で満8年となりますが、再読する日々はいずこへという感じで、目論見に反してまったく進んでいません。考えてみれば当然のことです。50代といえど世の中では働き盛りです。悠長に本を読みふけるなどという優雅な生活が叶うはずありません。

わたしの目下の願いは、60才を少し過ぎたときには、遅くとも65才のときにはゆつくりと本を読みたいなあというもののなのですが、果たしてうまくいくのかは心もとないところです。

それでも、たまには読むのです。大昔に読んだ本を。先日、本棚から引っぱり出した『さようなら コロンバス』もその一冊です。ニューヨークのお金持ちの家の女子大生と、下町に暮らす貧しい青年の恋の物語です。読み返して、そうだこういうお話だったよ、というなんとも懐かしい気持ちになった。そうかこういう話だったのか、という納得が半分でした。青年と彼女はともにユダヤ教徒の家に育っていて、そのしきたりや風俗の描写が、最初に読んだときにはなんのことか分からなかったんだ、ということが分かりました。

それにしても懐かしさ、かなり気持ちが切なくなる話でした。わたしと同年以上のみなさんにもありませんか？ 若かったときが。あつたんです、お忘れかもしれませんが。



DVD販売元: パラマウント ホーム エンタテインメント ジャパン

1969年に映画化もされているようです。こちらも見たいです。

このフィリップ・ロスのデビュー作は、アメリカのユダヤ人のお話といえども誰もが通り過ぎてきた青春の日々を思い出させてくれます。少なくとも「青春」という言葉を死語だとは思っていない(気づいていない)世代の人たちには。

フィリップ・ロスは今年で83才。毎年ノーベル文学賞の候補に挙がる大家です。『プロット・アゲンスト・アメリカ』という小説で、ヒトラーの友人で民族差別主義者だったリンドバークがもしも大統領になっていたらという世界を描きました。未読ですが、ぜひ読みたいと思っています。

社長

ラジオで始まる朝



あまり眠れなかった時期には、「ラジオ深夜便」も聞きました。このラジオ番組を愛聴されている方が多いこともその頃に知りました。眠れない夜を過ごされている方に、ラジオはおすすめです。

5時になると「マイあさラジオ」という爽やかな番組が始まります。NHKのファンではありませんが、NHKラジオのこの番組のファンです。私の場合まだぬくぬくとした布団の中で、うとうとしながら聞くのですが、これがとても幸せな時間なのです。

全国にいる様々な人が、今日も一生懸命に生きていてくれるんだなあ。そう思いながら聞いています。ラジオから流れてくる話やリスナーからのお便り、そして音楽を聴いていると不思議とつながりを感じます。一緒にうれしくなったり寂しかったり、寂しくなったり切なかったり、そしてほっこりしたり。勉強になることも多いです。



わが家で愛用しているラジオ。災害用にも、一家に1台はコンパクトなラジオがあると便利です。





材料を下準備してあとは煮込むだけ。うまい！



ガスを使っておいしくクッキング

丸ごとなすと豚肉のこっくり煮

なすと豚肉の相性が抜群！しょうがも入るのでからでも温まります。なべに材料を入れてあとはただコトコト煮込むだけ。それだけでとっても美味しいおかずができるこの「コトコト煮る」レシピ、すごくないかも〜♪



●材料（2人分）

なす 4個
豚こま切れ肉 200g
しょうが 千切り 1片



* なすはへたを除き、皮に縦に数本切り目を入れる



A { だし 1.5カップ
酒 大さじ2
砂糖 大さじ2
しょうゆ 大さじ2と1/2
ごま油 大さじ1

●作り方 材料入れて「コトコト煮込むだけ」レシピ（堤 人美）より

1、なすを炒める

なべにごま油を熱し、なすを中火で炒める。こんがりするまで5分ほど転がしながら焼く。



2、トロトロに煮込む

豚肉を加えてサッと炒め、しょうがとAの調味料を加えてひと煮立ちさせ、フタをして弱火で20分ほど煮込む。青菜を添えて盛り付けるとgood！



お年玉灯油プレゼントにご応募してくれた多くの方から、このページを楽しみにしていますというコメントを寄せていただきました。ありがとうございます。実際に調理の参考にしていただけているのもうれしかったです。大事なことはガス屋が発行しているニュースレター。だから、「ガスを使っておいしくクッキング」なのですよ〜♪毎日の暮らしの中、どうぞガスでおいしくクッキングしてくださいね^^

さて、今回キョウちゃんが担当したコトコトと煮るだけレシピは文句なしのオール★★★★！超〜簡単でおいしいので本当にオススメです。今の時期、ちょっとなすびが高値ですがどうぞお試しください。「ゴボウかと思った」とばわふる。そんなキョウちゃんのざっくり千切りしょうがだって問題なし！しょうがもおいしかったですよ。

そして、お気づきでしょうか？「早く〜。よだれ出る〜っ」と写真を撮り忘れて食べてしまいました。なので、今月の完成写真は煮込む前の写真で…失礼っ！



フライパンひとつでできる
簡単でおいしいおかず！

試食した人	今日の料理は★いくつ？（最高得点 ★3個）
社長 (3.0)	★★★ これはうまいよー。ほぼ誰にでもおすすめできるおかずだね。うん。うまいよ^^
マックス (3.0)	★★★ うん。おいしい！キョウちゃん担当のときは、『コトコト煮込むだけレシピ』をシリーズにしよう！
ばわふる (3.0)	★★★ おかずは3！でも残念なのが、ごはん担当の人（マックス）のせいでその分は減点！あ〜あ〜
キョウちゃん (3.0)	★★★ 作るのが簡単でおいしくていいですね。

ところで、「ねえ、違うセーターってないの？社長のセーターは何年も前から、いつも同じに見えるよ」とばわふる。違うんですよ〜！同じものを買って換えながら、同じ様なのも何枚か持っているのです。色も微妙に違うんだけどなあ…と苦笑いの社長です^^



確かにざっくりとした千切りしょうがでした。笑 でも、全然大丈夫！おいしかったですよ〜



社長のちよつと長いコラム

作詞家・岡本おさみさん逝く

休みの日にえりもまでドライブに出かけました。晴れた日の午後で、海も山もきれいでした。えりもの町を抜けてかつて肉牛牧場があった峠を越えて庶野まで降りていく間も、この土地にはめずらしいほど風のない穏やかな天気で、最高のドライブ日和です。「むかし、ここからもう少し先の家まで灯油を配達に来たんだよ」というと、女房はびつくりしていました。

百人浜を通って岬へと向かいました。こんなに静かなこともあるんだなと何度か二人で言っているうちに岬に到着です。クルマを降りると、驚いたことに風が吹いている！見ると吹き流しが真横になびいています。さすがはえりも岬です。突端に向かうにつれて少し風が強くなりますが、やがて眼下に海が見えました。きれいでした。

展望台で写真を撮りましたが、その入り口のところに「襟裳岬」の歌碑がありました。岡本おさみ作詞・吉田拓郎作曲・森進一歌唱で大ヒットし、レコード大賞を受賞しました。昭和49年のことです。歌詞に感銘を受けた森進一さんが、周囲の猛反対を押し切るかたちで発売されたと言われています。その岡本おさみさん作詞の歌碑で



す。吉田拓郎のファンなあいだではよく知られていることですが、この詞のタイトルは本当は「焚火」といいます。それをご当地ソングらしく名前を変えて「襟裳岬」という歌が生まれ

ました。岡本さんが書いた最初の「襟裳岬」はこんな詞です。

「襟裳岬」

岡本おさみ

こうして鈍行列車にゆられながら
したためた短い便り
電話の鳴り続ける忙しいきみの机に
名も知らぬ郵便配達夫が届けるだろう
都会のなすがままになつていくきみは
素直さをすりへらし
わずかなやさしさを守るのに勢一杯で
人に分け与える余裕がない
襟裳の秋はなにもない秋です
昆布をとる人の姿さえも
そうしてほんのひととき
きみはわずらわしさを忘れ
襟裳の民宿で汚れたシャツを洗うほくを
思い浮かべ
そのたどたどしい手つきに ふと
微笑むかもしれない

以前にも書いたと思うのですが、岡本さんの書く詞は明らかに学生がモデルではなく、世の中で暮らしているふつうの大人のことを描いていて、それがフォーク・シンガーから出発した吉田拓郎を二頭抜き出したメジャーな存在にしたのだと思います。中学生だったわたしは『元気でず』や『御伽草子』、『ライヴ73』の楽曲に、ハア、大人つてこうなのかと驚かされ、そこにどうしようもなく憧れたのだと思います。こんなことを書いていたら久しぶりに拓郎がテレビに出てきて、ビックリです。『祭りのあと』なんて20代で歌う詞じゃないよ、こわくてもう歌わない歌ですと話しておりました。そうかもしれません。岬からの帰り道は、ずっとむかしの吉田拓郎を聴いて浦河まで帰ってきました。



さのぱわふる日記



社長・恭ちゃん・さつちゃん・私の四人でランチに行った日のこと。

お腹いっぱい食べ、満足したので、そのまま廃棄物処分の仕事をこなしてから事務所に戻ろうという事になりお客様のお宅へ直行。

みんなでゴミを軽ワゴン車に積み込みお仕事終了。全員車に乗り込み出発。

運転手は恭ちゃん、助手席は社長。

ふと見るとルームランプが点いたまま。

「誰か半ドアなんじゃない？」と私。

まず、恭ちゃんが閉めなおす。

でも、ランプは消えない。ついで社長が閉めなおす。消えない。

「あくバクドアじゃない？」と私。

わざわざ恭ちゃんが車を停めて、社長が降り閉めなおす。

消えない。

「あらっ！私？」とさつちゃんが慌てて閉めなおす。これまた消えない。

げげっ！ まさかの私かい！

他人ごとと悠々と指摘していた私。

最後の最後に閉めなおしたら、なんと！

犯人は私だったという結末。

日々、責任転嫁が得意な私。

「あゝっ、灯油の在庫が合わない！恭ちゃん、在庫確認して。あれ？在庫は合ってるから、寺さんメーターの数字を書き違えたかな？」

あらっ間違えてないわ…盗まれた？

まさかね。なんで合わないの、おかしい？」と

散々騒いだあげく原因を探していたら、

単純に私の計算間違いという結末。

こうして冤罪がマルセイ内で起こっています。私の回りのみなさん、気をつけてくださいね。てへっ。

発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理

廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

冬季期間（10月～3月）定休日：日曜・祝祭日 営業時間 8:30～6:00 土曜3:00



編集 おはなし家（マックス）

発行部数 3500部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123